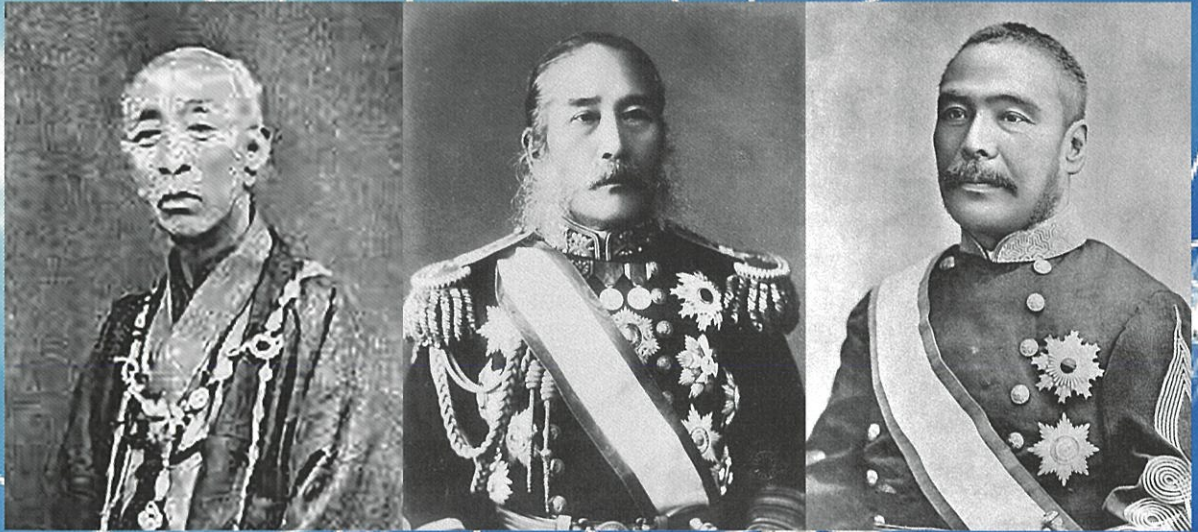


第32期特別記念展

蝦夷地から 北海道へ

時代の群像の書展

令和5年12月7日(木)~6年3月31日(日)



小原道城書道美術館

札幌市中央区北2条西2丁目 札幌2・2ビル2階

入館料：300円（大学生以下無料）

休館日：月曜日、年末年始（12月18日～1月8日）

ART
GALLERY
HOKKAIDO

アートギャラリー北海道

蝦夷地は、長く松前藩の支配地だったが、その領地開発は道南に限られ、その他の広範な地域はアイヌ民族や場所請負漁業者に委ねられていた。しかし、北辺からの脅威や開国・開港への対処のために、安政元(一八五四年)、江戸幕府の支配となり箱館奉行所が設置された。箱館奉行には優秀な人材を集め、蝦夷地巡回や有識者の建言などを元に、蝦夷地の計画的な開発を始めた。

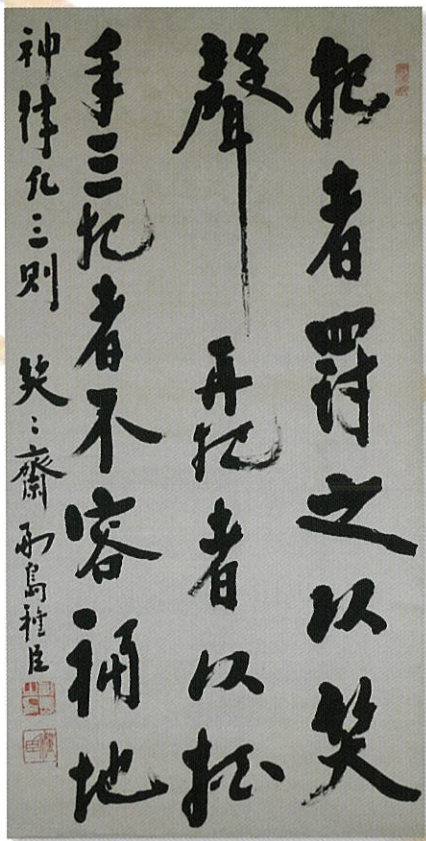
戊辰戦争により、政権が明治政府に移ると、北辺の脅威の深刻化もあいまって、北海道開発は最重要課題の一つとなり、北海道開拓使が設置された。場所請負制の廃止や分領支配、アイヌ民族同化政策など、試行錯誤を繰り返しながら、お雇い外国人などの力も借りて、急速な近代化施策を推進した。当展では、松前藩の蠣崎波響、箱館奉行の堀利熙、北方探検家の松浦武四郎、箱館戦争の榎本武揚・大島圭介、開拓使長官の東久世通禧・黒田清隆、開拓官僚の島義勇・松本十郎、北海道庁長官の岩村通俊・北垣国道、札幌農学校の佐藤昌介・新渡戸稲造など、それぞれの時代に、最先端で北海道の進むべき道に携わってきた人々二十五名の書画四十三点を展覧し、北海道を形成してきた人物群像とその時代を振り返る。なお、十二月十八日(月)〜一月八日(月)は年末年始休み。



松浦武四郎・風餐露臥



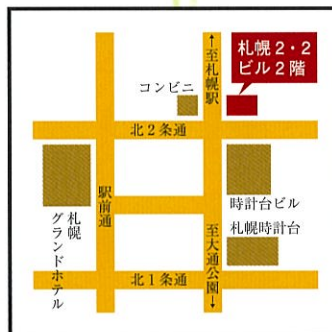
黒田清隆・處和



副島種臣・把者罰之

こはらどうじょう
小原道城書道美術館

〒060-0002
札幌市中央区北2条西2丁目41
札幌2・2ビル2階
お問い合わせ先：011-552-2100
入館料：300円(大学生以下無料)
開館：午前10時～午後5時
休館：毎週月曜日
交通：JR札幌駅より徒歩5分、
地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩5分

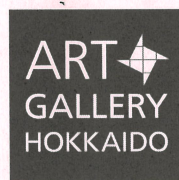


小原道城書道美術館 第32期特別記念展

会期 令和5年12月7日(木)〜

6年3月31日(日)

〔休館日〕毎週月曜日、年末年始(12月18日〜1月8日)



アートギャラリー北海道

蝦夷地から北海道へ 時代の群像の書展

蝦夷地は、長く松前藩の支配地だったが、その領地開発は道南に限られ、その他の広範な地域はアイヌ民族や場所請負漁業者に委ねられていた。

しかし、北辺からの脅威や開国・開港への対処のために、安政元(一八五四)年、江戸幕府の支配となり箱館奉行所が設置された。箱館奉行には優秀な人材を集め、蝦夷地巡回や有識者の建言などを元に、蝦夷地の計画的な開発を始めた。

戊辰戦争により、政権が明治政府に移ると、北辺の脅威の深刻化もあいまって、北海道開発は最重要課題の一つとなり、北海道開拓使が設置された。場所請負制の廃止や分領支配、アイヌ民族同化政策など、試行錯誤を繰り返しながら、お雇い外国人などの力も借りて、急速な近代化施策を推進した。

当展では、松前藩の蠣崎波響、箱館奉行の堀利熙、北方探検家の松浦武四郎、箱館戦争の榎本武揚・大鳥圭介、開拓使長官の東久世通禧・黒田清隆、開拓官僚の島義勇・松本十郎、北海道庁長官の岩村通俊・北垣国道、札幌農学校の佐藤昌介・新渡戸稲造など、それぞれの時代に、最先端で北海道の進むべき道に携わってきた人々二十五名の書画四十三点を展覧し、北海道を形成してきた人物群像とその時代を振り返る。

■小原道城書画展

書4点は、それぞれ異なった雰囲気を持つ作品、画5点は落ち着いた宮廷画風のものと脱俗の文人画風の作品です。どうぞじっくりとご鑑賞を。

■中国拓本展・中国印材展

拓本は、いずれも見事な作品で、東晋の爨寶子碑、北魏の鄭道昭の観海童詩、唐の顔真卿書の王琳墓誌です。中国印材は田黄を中心としたコレクションで、石印材の魅力を楽しんでください。

◆蝦夷地から北海道へ時代の群像の書 展◆(第一・二・四室)

(第一室)

1 堀 利照 處世若大夢 胡爲勞其生 所以終日醉 頽然臥前楹…

2 石井潭香 年光付書卷 幽事續罌香

3 松浦武四郎 一筇一笠裹糧行 前鬼逐從後鬼迎 沐雨櫛風習成性…

4 風餐露臥了吾願 編喜蠻荒齋命還 木幣削來祝蘇胞…

5 夢にたにしらぬ山路の草枕 馴来し犬に夜を守らせて

6 頼三樹三郎 1 江山秋葉夜 風笛動新愁 坐久涼衫濕 星河欲入樓

7 月影如明水 秋香吹滿家 冷在東籬下 人邪將菊邪

8 得句思隣友 泥深不可行 山中一夜雨 閒數落梅聲

9 南摩綱紀 昨雨洗春痕 山容如出浴 杜鵑忽一聲 樹々吹新緑

10 松浦武四郎 4 幾としかおもひふかめし北の海 道ひくまでになし得つるかな

11 栗本鋤雲 欺人雄略曹孟德 絶代文章蘇子瞻 休道江山無定主…

12 林 董 寒過ぎて暖来るらし あさ日さすかすかの山にかすみたなひく

13 山田頭義 藜葉帶紅秋色催 境深泉石不留埃 陶然一醉詩思富…

(第二室)

14 榎本武揚 1 勳閥名門悉倒戈 祖宗百戰奈山河 誰圖開化文明日…

15 白扇倒懸東海天

16 五稜郭畔望江城 流落天涯孤客情 有約明年塵逆賊…

17 月影碎波金塔横 流星如劍劈空行 山河滿目無窮感…

18 蜻蜓纒息戰 玄菟又移兵 咄々豊關白 不堪腓肉生

19 火氣騰空千丈長 天風四面帶硫黃 踈狂有客叫奇絶…

(ショーウインドウ内)

(作品寸法…縦×横、単位cm)

(109×48)

(93×28)

(134×32)

(149×41)

(134×29)

(135×27)

(23×10)

(135×29)

(132×33)

(鏡拓本 直径96)

(135×33)

(123×30)

(116×32)

(145×47)

(149×83)

(134×41)

(135×33)

(138×53)

(146×51)

(東久世通禧との合作)

20 蠣崎波響 落款・松前波響

(六曲一双屏風の左隻 1 3 4 × 49 × 6)

21 大鳥圭介 1 老松崇檜影蒼々 三十年前古戰場 砲響硝煙歸一夢…

(1 3 1 × 45)

22 雲含雨意壓嶙峋 溪水無橋不辭泮 片月朦朧山寂寞…

(1 3 5 × 32)

23 永井尚志 2 濛々天下雨 習々太平風 神宰一宵力 巍然鎮大東

(1 3 7 × 29)

(第四室)

24 東久世通禧 風捲波濤夜不収 數聲征雁喚鄉愁 新寒徹骨夢難就…

(1 4 6 × 71)

25 黒田清隆 處和

(25 × 50)

26 島 義勇 花片乱殘鳴暮禽 客中寥落獨間吟 黍纒一爨幾榮辱…

(合幅 1 2 4 × 29、33)

27 松本十郎 1 荷蓑荷笠立於隴畝 彎弓執矢能逐群雀 當路縉紳不愧歎否

(1 0 3 × 29)

28 朝聞曉鴉之鳴而就 (於業)。夕日沈於虞淵而後休矣。…

(1 1 0 × 49)

29 湯地定基 出無車處食無魚 貧迫骨時情有餘 一夜天公何惠與…

(31 × 47)

30 岡本監輔 孝弟

(36 × 49)

31 副島種臣 1 手折紅桃下山遲 且將享祀獻靈祇 舞愈急際花時散…

(1 5 9 × 52)

32 夏時晷午天中入 地有風吹御服涼 社稷已老承不顯…

(1 2 2 × 43)

33 街上秋光元在菊 街南街北女媚家 同出望吾々望菊…

(1 7 2 × 30)

34 金桂紛々下林罅 碧天明月清風夜

(1 4 6 × 65)

35 把者罰之以笑聲 再把者以拍手 三把者不容福地

(1 3 8 × 69)

36 日出扶桑

(扁額 34 × 1 5 5)

37 岩村通俊 討賊千軍萬馬行 死生何論此時情 御簾高捲天顏美…

(1 4 9 × 55)

38 渡辺千秋 時平天子賜暇休 野服曳杖入林丘 家々翁媪相迎喜…

(1 4 2 × 67)

39 北垣国道 桜花爛熳柳如煙 千里春風接海天 莫謂相談纔半日…

(1 0 8 × 29)

40 泉麟太郎 國民の壽喜祝ふ真心は 天地神も聞し召すらむ

(額 38 × 50)

41 佐藤昌介 溪水逶迤渡幾回 山雲呼雨迫身來 轎中兀坐人如醉…

(1 3 0 × 50)

42 新渡戸稻造 1 拜啓 昨日申上置候支那側代表氏名表全部校正追加之上別紙御送付申上候…

(横額 19 × 48)

43 さかりをは見る人多し散る花の あとを訪ふこそ情なりけれ

(1 5 1 × 33)

◆小原道城書画展◆(第二室)

44	小原道城書 1	風翔	(137 × 68)
45	2	暮雲収盡溢清寒 銀漢無聲轉玉盤…	(176 × 56)
46	3	蕭散	(135 × 67)
47	4	耀与雲揚鴻漸羽儀龍騰鳳翔矯翮凌霄	(137 × 34)
48	小原道城画 1	東風吹江水 花開照顔色…	(94 × 55)
49	2	霏々桃李花 競向春前開…	(137 × 51)
50	3	孤芳皎潔	(89 × 34)
51	4	潭清疑水淺 荷動知魚散	(65 × 65)
52	5	萬壑樹聲滿 千崖秋氣高	(70 × 138)

◆中国拓本展◆(第二室)

拓本一	東晋・爨寶子碑 晋故振威將軍建寧太守爨府君之墓…	(162 × 58)
拓本二	北魏・觀海童詩 詩五言登雲峯山觀海童鄭道昭作…	(127 × 183)
拓本三	唐・王琳墓誌 唐故趙郡君太原王氏墓誌銘并序…	(99 × 97)

◆中国印材展◆(第四室ショーケース)

中国では、古代から玉などの石に対する偏愛があったが、印材としては明代以降に多用されるようになり、その中で印材の材質・色沢・文様・加飾など、嗜好の多様化・高度化が進んだ。

本展では、小原道城が収集した田黄を中心とする印材二十六点を展覧する。印材の色沢・文様・加飾の多様さ・美しさを楽しんでいただきたい。

小原道城書道美術館

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西2丁目41番地 札幌2・2ビル2階

お問い合わせ先=日本書道評論社 (TEL 011-552-2100)

[入館料] 300円 (大学生以下無料)

[開館時間] 午前10時~午後5時

[休館日] 毎週月曜日・年末年始・お盆休み・作品の展示替えの期間

[交通] JR札幌駅より徒歩5分、地下鉄さっぽろ駅・地下鉄大通駅より徒歩5分

協賛 / 日本書道評論社・(株)日成堂